

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2775002831
法人名	株式会社中和会
事業所名	中和会 グループホーム ときめき苑
訪問調査日	平成 19 年 8 月 18 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 20 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2775002831
法人名	株式会社中和会
事業所名	中和会グループホームときめき苑
所在地	東大阪市御厨南2丁目2番6号 電話 06-6781-6510

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センタ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年8月18日	評価確定日	平成19年9月20日

【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 8 名	非常勤 16 名

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 4階建
	4階建ての 2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名	
要介護1	2 名	要介護2	5 名			
要介護3	9 名	要介護4	2 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	85.2 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人中和会中西医院・医療法人宝持会池田病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近鉄奈良線八戸ノ里駅から徒歩3分メイン道路から少し入った場所に立地し、平成14年11月1日開設された4階建の2、3階、2ユニットのグループホームである。1階はデイサービスとして使用され4階はホームの行事などに使用される共用スペースとなっている。入口に繋がる通路横には植木があり、草花も植えられ利用者も入りやすく、家族や外部からの訪問者が気軽に入れる雰囲気がある。ホーム内の共用部分は広くゆったりしている。職員のケアに対する改善意欲も十分感じられ、入居者も明るい。鍵をかけないケアを実行しており、一人で外出する入居者も時々はあるようであるが、職員が後からそれとなく見守って安全を確保している。地域との融和も徐々に進んでいるようであるが、なお一層地域に溶け込まれるよう期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での提案事項は家族の意見、要望を引き出すための働きかけ、と職員間の申し送りの徹底、そのほか一般職員の研修にも注力とあったが、いずれも取り組みが行われている。家族の意見要望は、運営推進会議への家族代表の出席、意見箱の設置等、職員間の連絡には連絡帳を、職員の研修参加には積極的に応援している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者および職員は外部評価の意味を理解しており、改善に取り組んでいる。今回の自己評価にはほとんどの職員が参加して意見等が取り入れられている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の主な内容はグループホームからの運営方針や現状について報告があり、参加者からは、この地域に当施設があり続けることへの希望等が出された。今後回を重ねることにより、内容の濃い会議とし、それを活かした取り組みを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、担当者が入居者の家族あてに自筆で便りを書いて、写真を添え近況を報告している。家族との連携を深くして家族からの意見、要望を引き出す努力をしている。家族の訪問時には必ず声かけをし、話を聞くことにしている。又各ユニットに意見箱を設置しており、入居者や家族の声を集める取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事に参加したり、ホームでの催し(敬老会、夏まつり、地域ボランティアの演芸等)に家族や地域の住民を招待したり、地域との絆を深める努力をしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念「ご利用者様が地域との係り合いの中で 生きがいをもって暮らし 安心して 家庭的な生活を送れるようにします」を各階に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記理念は、職員から募集し、みんなでこれを選んだ。職員自らがつくりあげ、共有し、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会との交流を行っている。婦人部、老人会行事には入居者も参加し、また、ホームの行事には地元の自治会やボランティアの参加も得てこのときめき苑4階で親睦会など交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員それぞれ自己評価及び外部評価の意義を理解している。自己評価は各ユニットで記入し其れを管理者が纏めて記入しどう改善するか全職員とも話し合っている。外部評価における提案事項は真剣に改善に繋ぐ努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回は開催し、地域包括支援センター職員、自治会長、入居者家族代表、ホームからは管理者、職員が出席し、状況の報告の他出席者からの意見等をサービス向上に生かそうとしている。今後は2ヶ月に1回の開催を予定している。議事録も整理されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉担当者の運営推進会議への出席はないが、東大阪市高齢福祉部高齢課を訪問し折にふれ連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当者が自筆のホーム便りを作り入居者の様子を家族に報告している。また家族がホームへ来やすい雰囲気づくりをしている。職員の顔と名前を家族に分かってもらいやすいような取り組みも行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を設置し来所された家族や、入居者から自由な意見、要望を拾い上げる努力をしている。また、家族が来所されたときに、必ず声かけをし話を聞くようにしている。要望があれば運営に反映させることになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は最小限に抑える努力をしている。現在は離職者は少ない。やむなく離職する場合はできるだけ早くから、入居者や家族に連絡をとり不安を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修参加には積極的である。外部研修に参加する場合の勤務調整や仕事との両立を応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老人施設部会や大阪認知症高齢者グループホーム協会に所属し交流を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイの利用を勧めている。十分ホームの様子を理解してもらうよう勤めている。また、おなじ建物内1階にあるデイサービスを利用して家族ともども馴染みの関係を作ってから入居をしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は自分の祖父母、両親の介護をする気持ちをもって入居者に接している。また、人生の先輩としての敬意も払っている。その中で、教えられることも多く。教えるを請うことで入居者の生き生きした表情を見ることに喜びを感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向は日常の動作、しぐさ等でほとんど把握している。食事、入浴、排せつ、その他くつろぎの時間や趣味を楽しんでいる時など一緒に過ごす時間を多く作ることで意向把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員を担当制にしてサービス担当者会議を行い医師、家族の意見も盛り込んだ内容のケアプランについて話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年ごとに介護計画の見直しをおこなっている。病状が安定している場合でも6か月あるいは介護認定期間が満了する時、介護区分が変わるとき、それぞれ見直しを行っている。	○	病状が安定していて介護計画を変更せずに継続する場合でも家族には充分その内容を伝え了解の印をもらっておくのが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空き室を利用してショートステイの受け入れを行っている。そのほか地域住民を対象にした介護教室の開設を検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列の医療機関(診療所)があるので、その受診者が入居している例が多い。その他の場合も家族本人の了解のうえホームとの関係を密にした医療機関での医療受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所の際に入居者の病状が重度化した場合や終末期のあり方について話し合いをし丁寧に文書化している。入居の場合は詳しく説明し納得の上同意書を貰っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いは適切に行われている。またプライバシーを損ねる言動には管理者、職員とも気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、入浴時間等多少の柔軟性はある。全員必ずこの時間とは決めず希望に沿うよう勤めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、後かたづけなど入居者も手伝っている。管理者、職員も一緒に食事をしながら自然体で世話をされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後は比較的自由に入浴を楽しめるよう支援している。同じ建物内にあるデイサービスの広い浴場にも希望により入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間計画による誕生会、お花見会その他ボランティアによる演芸会や、手芸、書道、塗り絵など楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の良い時には、近くの公園に散歩に出たり、近くのコンビニへ買物に出たり、ベランダや庭の花木の水やり、手入れなども希望にそって支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室、その他の扉も鍵は掛けていない。自由に出入りできるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で防火、避難訓練を1年2回行っているほか、防火設備業者による点検を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者による食事提供ではあるが、あらかじめ業者から届くメニューで栄養バランス等を調べ、時には変更を申し入れることもある。必要な入居者には水分補給量のチェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室は広いほうも使えるようになっている。食堂、居間は比較的広くゆったりしている。居間の壁面に入居者の手芸作品をかけ、季節感も演出されている。各フロアにソファを配置し自由にくつろげる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたお好みの家具調度品および仏壇も持ち込まれている。又カーテンは各自の好みによる色調の物を選んでもらっている。		